

## 田代山&帝釈山山行報告

【山行日】2025年 10月 19(日) 曇り後晴れ

【集 合】栃木市運動公園P AM 5:00

【費 用】マイカー2台 : 2,400円

【メンバー】CL:鈴木、SL:吉田、飯野、猪瀬、大塚、岸、佐藤、嶋田、田崎、根本、野口、長谷川、福島、藤原ト

【コースタイム】栃木市運動公園 P5:00=猿倉登山口

P7:40/8:00~小田代湿原 9:00/9:10~

田代山避難小屋 9:50/10:00~帝釈山 10:55/11:10~

田代山避難小屋 12:10/12:50~小田代湿原 13:10~猿倉登山口 P14:00/14:15=道の駅「番屋」  
14:50/15:05=道の駅「たじま」15:35/15:50=栃木市運動公園 P17:25

今週も土日の天気予報は雨の予報で、3週連続で天気を心配しながら悩まされる。前日の朝の予報から会津地方の天気予報が好転し、予定通り決行しますと皆さんに連絡した。当初は会津の志



津倉山に登る計画だったが、登山口への林道が崩落し通行止め為田代山と帝釈山に変更した。

栃木市運動公園を4:00に出発し、道の駅「たじま」でトイレ休憩し南会津町へ向かう。南会津町舘岩の交差点を左折し、湯の花温泉を通り田代山林道を猿倉登山口に向かって走る。湯の花温泉の先までは舗装されていたが、途中からはダートな道を走るようになる。湯ノ岐川沿いに付けられた林道を、時速20Km で慎重に走り猿倉北の駐車場に着く。ここにはトイレが整備されているので、トイレを済ませたら車

に乗り登山口がある猿倉南の駐車場に着く。霧雨が降っていて心配な人はレインウェアを着てもらう。出発の準備を整えストレッチを済ませたら出発し、湯ノ岐川に架かる丸木橋を渡り登り始める。沢沿いの道を進むとジグザグの登りになり、急坂を登った広い場所で衣服調整する。1500mを越えたあたりから霧雨は無くなり、空が明るくなってきた。後で分かったことだが、1500mから下は雲海の中で霧雨を感じていた。高度が上がるにつれ傾斜がきつくなり、左手には県境の稜線が見えるようになる。周りの樹木が低くなりササが多くなると展望が開け、稜線の紅葉がとても美しい。やがて傾斜が緩くなり、木道を歩くようになると小田代湿原に出る。草紅葉の向こうには雲海が広がり、皆さんから歓声が上がる。小休止して展望を楽しみ、菓子をいただき水分補給を行う。木道を進むと前方に田代山が聳え、標高差100mのきつい登りを登り切ると広々とした田代山湿原に出る。



山頂は平らで広大な湿原が広がり、南東方面には雲海の上に日光連山が突き出て、北側には雲海の向こうに会津駒ヶ岳が大きく聳えている。草紅葉は終盤を迎え色が濃くなっているが、広大な湿



原からの展望は素晴らしい。湿原の中ほどに田代山山頂の標識が立ち、記念写真を撮ったら木道を進むと田代山避難小屋に着く。ここには立派なトイレが設置され、登山靴のまま上履きを履きトイレを使用できる。

トイレを済ませたら避難小屋の前を通り、帝釈山への道を緩やかに下って行く。オオシラビソの樹林の中を鞍部まで下り、ここから帝釈山へ向かって登って行く。大きな岩をアルミのハシゴでいくつか越え、平坦な尾根を少し進むと

帝釈山山頂に着く。山頂は狭いが展望は抜群で、我々がなじみの深い女峰山から男体山、日光白根山がくっきりと望め皆さん感動していた。北側には会津駒ヶ岳から燧ヶ岳が望め、まさに360度の大自然を楽しめる。薄日が差して展望を楽しみながら山座同定を行い、記念写真を撮ったら下山開始する。下山は往路を避難小屋まで戻り、トイレの裏側のベンチがある休憩所でランチタイムとする。広い休憩所にはベンチが沢山並び、我々だけの貸切で使用でき、ゆっくりランチを楽しめた。ランチが済んだら下山開始し、田代山湿原は一方通行になっているので、反時計回りに湿原の南側の木道を進む。湿原入口で往路と合流し、ここからは往路を下って行く。空はすっかり晴れて青空が広がり、周りの木々の紅葉がとても美しい。ところが高度が下がり1500m位になると曇って来て、少し雨粒を感じる。雲海の中に入り、雲の中を下っているのだ。登山口に着き靴を履き替えたらずりに乗り、猿倉北の駐車場でトイレを済ませる。林道を下ると晴れていて、湯ノ岐川沿いの紅葉が美しい。トマトを買いたいので道の駅「番屋」に寄るが、時間が遅く売り切れてしまっていた。仕方なく道の駅「たじま」に寄って買い物し、予定より少し早く栃木市運動公園に帰着した。

